

村上 常雄 議員
(一括質問方式)



- ①市長の政治姿勢について
- ②大型公共事業について
- ③地域DMOキタ・マネジメントの今後の活用と行政支援、周辺地域への波及について

市長の3期目に向けた決意について

問 3期目への出馬にあたり、二宮市長の所信と目指す大洲市の将来像について伺いたい。

答 市長の最大の責務は、第一に市民の皆様の生命と財産を守ること、そして未来を担う子供たちが健やかに育ち、全ての市民が生きがいを持って心豊かに暮らせる環境を整えることであると考えています。その考え方の下で、就任以来、人、自然、文化がきらめくまちづくりを公約の柱に掲げ、幸せを実感できるまちづくりに取り組んできました。

10年後、20年後の大洲市を見据え、これまで築いてきた国や県、県内自治体とのパイプ、人脈も活かしながら、現在取り組んでいる肱川の治水対策、防災・減災対策、地域の魅力創出などの施策、事業の総仕上げを行うことで、市民の皆様がより幸せを実感できるまちに必要な基盤を構築し、確実に未来にバトンをつなげることができるよう、私なりの最後の挑戦を行いたいと決意し、3期目に出馬することとしました。

3期目の公約の大きな項目として、1つ、安全安心と防災・減災のまちづくり、2つ、健やかに暮らせるまちづくり、3つ、活力ある住み続けたいまちづくり、4つ、未来に向けた基盤づくり、この4項目の実現に向けて、市民の皆様の声をお聞きしながら協働して取り組んでいきたいと考えています。

人・自然・文化がきらめくまちづくりの実現に向けて、市民の皆様、市内の団体や企業の皆様、そして議員各位、市職員が一丸となり、将来に向けてよりよい大洲市の構築のため、私自身の最後の挑戦として、全身全霊をかけて全力で取り組んでいきたいと考えています。

大洲市民文化会館建設事業について

問 物価上昇が続いているが、建設事業費の見込み

を伺いたい。また、本体工事の入札時期を含めた今後の予定について伺いたい。

答 建設事業費については今年の3月の実施設計完了時点において約62億円を想定していましたが、建設物価高騰の影響は依然として大きく、想定額での事業実施は難しい状況です。

現在、本事業の積算について、設計書の単価入替え作業に着手しており、年度末までには見積書の再取得を行うとともに、令和8年度の労務単価を反映した設計書を整える予定です。

今後の予定としては、国の補助金の交付決定後、関係予算を6月補正予算で審議いただき、8月の入札を予定しています。

令和11年2月の完成、令和11年の夏から秋頃のオープンを目指し、管理運営計画の策定や備品の選定など諸準備を進めていきたいと考えています。

観光振興における地域DMOの位置づけと役割について

問 今後の大洲市の観光戦略において、地域DMOをどのように位置づけ、具体的にどのような役割を担わせようとしているのか。

答 地域DMOである(一社)キタ・マネジメントは、行政が直接担うことが難しい市場視点での観光地経営と民間事業者が持つ現場の強みを結びつける中間組織としての機能を持つものです。

これまで、行政と民間をつなぐハブとして双方の強みを最大化し、地域全体の価値向上につなげてきた点は高く評価されるものと考えています。

今後の本市における観光戦略においても、行政の政策目的と民間事業者の経営感覚、市場感覚をつなぎ、持続可能な観光、地域経営を牽引する存在として位置づけています。

具体的な役割として、エリアマネジメントに基づく地域資源の磨き上げ、事業者の支援や人材育成、データ活用によるマーケティング、広域連携や民間投資の呼び込みといった役割を担い、行政だけでは実現できない柔軟性とスピード感を持って地域の観光振興を支え、持続可能な観光促進を求めていきたいと考えています。